

市川を調べる

編集 市川を調べる会(会長・星 一郎/事務局・木村隆一)

発行 八戸市立 市川公民館 (館長 氣田 武男)

美田開いた郷土の偉人

多賀台 奈良孝次郎

1. 藤田又右衛門

平成22年6月6日付のデーリー東北新聞に、「注目集まる郷土の偉人」という記事が掲載されましたが、私はそこにもう一人を追加したい。その人は藤田又右衛門。市川新田開拓の功労者である。

藤田又右衛門は五戸の御給人で五戸の豪商・藤田家の人。天保年間に藩に申請し、開拓に着手した。この時期は天保の飢饉といわれたところで、人々は不作に苦しみ、藩の金庫も空だった。

2. 難工事で挫折

そんな中、自己資産を投じて開拓に乗り出したのである。当所、7年間で予定していたが、挫折して中断。理由は、難工事で作業が進まず、資産もなくなったためである。しかし、思い直して工事を変更した上で事に当たり、結局21年間で費やして安政3年(1856)についに完成させた。



(五戸町、北市川橋の近くにある神明川原頭首工…藤田又右衛門が五戸川から取水した所)

3. 160町歩余の美田

豪商・藤田家の資産は尽きたが、代わって160町歩余の美田が現出することになった。いま、市川新田といわれる辺りは、広大な荒地だった

4. 開墾記念碑

以後、地元の人たちは又右衛門の志を受け継いで水利組合として事業の拡大に努め、当時の3倍余の水田を開き、今日に至っている。「又右衛門堰(ぜき)」と通称される用水堰は、満々と水を水田に流している。又右衛門の功績をたたえて、同市、市川町尻引の国道45号線沿いに、開墾記念碑がある。

(平成22年6月12日、デーリー東北紙「こだま」欄掲載)

5. 「忘れ得ぬ人々」より(要約) 「はっち」の3階に「忘れ得ぬ人々」というコーナーがあり安藤昌益などを紹介しているが、追加してほしい人たちがいる。一人は藤田又右衛門だ。江戸末期、粘り強い努力の末、市川新田の開田に成功した人である。しかし当時の市川は盛岡藩で、八戸の人にはあまり知られていなかった。(以下省略)

(平成23年2月22日、デーリー東北紙「こだま」欄掲載)

※本会の指導講師奈良孝次郎氏が、この度「小説 藤澤茂助流転 ほか 華雪舎(代表:奈良雪江)」を発行いたしました。

